

◎ロキソニン錠 〔内〕

【重要度】 【一般製剤名】ロキソプロフェンナトリウム水和物 Loxoprofen Sodium Hydrate 【分類】鎮痛・抗炎症剤

【単位】◎60mg/錠

【常用量】■消炎・鎮痛・抜歯後：1回60mg，1日3回〔頓服は1回60～120mg〕

■急性上気道炎の解熱・鎮痛：1回60mg 頓服〔原則1日2回まで，180mg/日を限度〕

【用法】頓服もしくは食後■空腹時の投与は避けるのが望ましい

【透析患者への投与方法】常用量（5）

【保存期 CKD 患者への投与方法】常用量だが，腎障害の悪化の懸念からできるだけ投与しない（5）

【その他の報告】重篤な腎障害のある患者には投与禁忌〔急性腎不全，ネフローゼ症候群等の副作用を発現することがある〕（1）

浮腫，蛋白尿，血清クレアチニン上昇，高カリウム血症等の副作用に注意（1）

【特徴】基礎実験での鎮痛作用はインドメタシンの20倍と強い鎮痛作用を特徴とする抗炎症剤。プロドラッグのため胃腸障害の副作用が比較的少ない。

【主な副作用・毒性】ショック，溶血性貧血，SJS，AKI，消化管出血，黄疸，喘息発作，過敏症状，胃腸障害，眠気，頭痛，肝障害，ネフローゼ症候群，浮腫，心悸亢進，間質性肺炎など

【吸収】良好（11）ka=11.21/hr（1）trans-OH 体の ka=3.56/hr（1）

【F】初回通過効果によりほとんど代謝される（11）

【tmax】未変化体 30min，活性代謝物 trans-OH 体 50min（1）

【代謝】主に肝で活性代謝物である trans-OH と不活性代謝物である cis-OH に代謝される（11）CYP の関与はない（1）

【排泄】尿中回収率 50%〔po，8hr まで〕（11）尿中には未変化体 2.2%，trans-OH 2.2%，cis-OH 1.1%，未変化体のグルクロン酸抱合体 21%，trans-OH のグルクロン酸抱合体 16%，cis-OH のグルクロン酸抱合体 7.9%排泄（11）

【t1/2】1.25hr（1）1.22hr（未変化体）活性代謝物の trans-OH は 1.31hr（11）

【蛋白結合率】99.7%（1）未変化体は 97.7%〔ほとんど Alb〕，活性代謝物 trans-OH は 95.2%（11）trans-OH 体 92.8%（1）

【Vd】7.6L/man，活性代謝物の trans-OH は 47.4L/man（11）

【MW】304.31〔水和物〕

【透析性】蛋白結合率が高いため透析によって除去されにくいと思われる（5）資料なし（1）

【OW 係数】低い（11）0.82〔1-オクタノール/水系（第2液，pH6.8）〕（1）【pKa】4.2（1）

【更新日】20250527

※正確な情報を掲載するように努力していますが，その正確性，完全性，適切性についていかなる責任も負わず，いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし，それらを利用した結果，直接または間接的に生じた一切の問題について，当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は，日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。